

岐阜県の森林・林業

森もり林のたより

「ぎふの木フェスタ2017」開催

No.771
2017 December

12

FREE

ご自由に お持ちください。



●「ぎふの木フェスタ2017」開催の様子
初開催にもかかわらず、多くの来場者にお越しいただき、存分に「ぎふの木」に
親しみ、楽しむ機会としていただくことができました。(詳しくは3ページ)

編集・発行 公益社団法人 岐阜県山林協会

E-mail sanrinag@quartz.ocn.ne.jp

<http://www.g-forestry.or.jp> (公社)岐阜県山林協会の情報をご覧いただけます。

開催日	行事名等	内容等 (概要、定員、受講料、申込期限など)	開催場所 問い合わせ先
12月12日(火) ~12月27日(水)	平成30年度 森林文化アカデミー 入学試験(第3回) 願書受付期間	<ul style="list-style-type: none"> ●森と木のエンジニア科(一般入試2) 1月13日(土) ●森と木のクリエイター科(入試3) 1月14日(日) ●入学願書(学生募集要項)については、ホームページ(http://www.forest.ac.jp/)からダウンロードできます。 	森林文化アカデミー(美濃市曾代88) 森林文化アカデミー TEL 0575-35-2525 FAX 0575-35-2529 E-mail info@forest.ac.jp URL http://www.forest.ac.jp/
1月14日(日)	(仮称) 恵みの森づくり コンソーシアム フォーラム& 恵みの森ギャラリー	<ul style="list-style-type: none"> ●概要:恵みの森に関わる講演会や、森の恵みに関する展示販売 ●定員:100名程度【講演会のみ】 ●参加料:無料 ●申込み:平成29年12月1日~平成30年1月5日 	じゅうろくプラザ (岐阜市橋本町 1-10-11) 岐阜県林政部恵みの森づくり推進課 TEL 058-272-8473
①1月21日(日) ②1月28日(日) ③2月4日(日)	清流の国ぎふ 親子「森・里・川・海」 体験ツアー (冬コース)	①1月21日(日) 「岐阜の宝もの『岩村城跡・城下町』と五平餅作り 恵那峡遊覧船から渡り鳥バードウォッチング」 <ul style="list-style-type: none"> ●定員:25名 ●参加費:大人3,200円、小人2,300円 ②1月28日(日) 「木曾三川にて 砂防と治水の学習&いちご狩り」 <ul style="list-style-type: none"> ●定員:30名 ●参加費:大人4,000円、小人3,800円 ③2月4日(日) 「郡上白鳥で白銀の雪とのふれあいとアニマルトラッキング」 <ul style="list-style-type: none"> ●定員:30名 ●参加費:大人・小人3,900円(同額) 	①岩村城跡・恵那峡県立自然公園 他 ②さぼう遊学館、木曾三川公園 他 ③郡上市白鳥町 ※発着地はJR岐阜等、コースによって異なります 名鉄観光サービス(株) 岐阜支店 TEL 058-265-8103 FAX 058-263-5059 Web「名鉄観光 清流の国ぎふ」で検索【申込受付中】



市況	18
林業者向けお知らせ	17
林業団体と県議会議員との懇話会を開催しました	17
ニホンジカ食害防除対策検討会	16
農林高校生林業就業促進事業と	16
国有林の現場から(15)	15
路側構造物傾倒の原因究明と対処方法	15
治山・林道研究課題	14
列状間伐で壮齢ヒノキ人工林の表土移動は防げるか	14
研究コーナー	12
ひだ施業プランナークラブと指標林設定	12
普及コーナー	11
100年先の森林づくりは人づくりから	11
地域の原木しいたけのあじわい	10
山のおしゃまむし(317) 音色でおいしいヒール、ゴオロギ	9
第56回治山研究会中部支部現地検討会に参加しました	9
平成29年度	8
わがまちの森林・環境行政(12) 岐阜市の森林づくり	8
木の香るぎふの施設(58) 川辺町おおぞら教室	7
木造住宅の耐震性能について	6
平成28年熊本地震被災状況より	6
森林と人を活かす知恵(60)	5
第57回治山研究発表会の開催	5
山の歳時記(148) ユキムシ	4
平成29年度森林の名手・名人認定証伝達式が行われました	4
平成30年度清流の国ぎふ地域活動支援事業の提案募集	3
ぎふの木フェスタ2017を開催しました	3
イベントカレンダー(一般向け)	2

森もりのたより

No.771 12
2017 December



表紙「ぎふの木フェスタ2017」開催の様子

ぎふの木 フェスタ2017 を開催しました

9月30日(土)・10月1日(日)岐阜メモリアルセンター(岐阜市)の「芝生広場」において、第1回目となる「ぎふの木フェスタ2017」を開催しました。好天にも恵まれ、両日合わせて2万1千人の方々にご来場いただきました。

会場内には、木のおもちゃで存分に遊んでいただける「木のおもちゃ広場」や「赤ちゃん木育広場」、岐阜県産のヒノキで製作された「子どもアスレチック」や「巨大迷路」、さらには「ウッドチップ広場」や「子ども上棟式」などが登場し、それぞれ多くの親子連れで賑わいを見せていました。

また、出展ブースでは、県内の各企業や団体などによる多彩な体験・展示・販売ブースが大集合し、各ブースとも多くの来場者で溢れていました。

加えて、ステージ上では、1日目には県内の子供達による「チアダンスパフォーマンス」や子供達に大人気の「ドラえもんショー」が、2日目には、「アルプホルンの演奏」、ぎふの木を使って様々な競技を行う「ぎふモクリンピック」、さらには迫力ある「チェーンソーアートの実演」などが行われ、会場を大いに盛り上げました。

両日に渡り、多くの方々に丸ごと1日「ぎふの木」を満喫していただき、木の良さや木を使うことの大切さを実感していただけたものと思います。

最後に、開催にあたり、ステージイベントにご出演いただいた方々、また各ブースの出展者、そして、ご協力・ご協賛をいただいた各団体の関係者の皆様に、改めて御礼申し上げます。



平成30年度 清流の国ぎふ地域活動支援事業の提案募集

県では、「清流の国ぎふ森林・環境税」を活用し、県民の皆さんが自ら実行する森づくりや川づくり、水環境や生物多様性などの環境保全活動に対し、活動費を助成しています。

このたび、平成30年度事業について募集を行います。

■ 募集事業の概要

申請書受付 平成29年11月1日～平成30年1月10日

応募対象者 県内に活動拠点を置く団体や法人

対象事業 県民参画を促進する森づくり・川づくり活動
水環境や生物多様性の保全を目指す活動
子どもたちのための森づくり・川づくり活動

補助率等 補助対象経費50万円以下については10/10、
50万円を超える分は1/2
補助金上限125万円、下限10万円

応募方法 応募書類を事業実施場所を所管する県農林事務所へ
郵送等により2部提出

■ 内容についての質問

事業の内容など質問がある場合は、「清流の国ぎふ森林・環境税活用サポート窓口」へお問い合わせください。

【清流の国ぎふ森林・環境税活用サポート窓口】

窓口直通電話 058-272-8472 (平日8:30-17:15)

E-mail c11513@pref.gifu.lg.jp

■ 具体的な実施例 (平成29年度)

- 都市部でのプレーパーク体験・木育活動
- 地域の里山林保全活動
- 子どもたちに対する森・川・海での自然体験活動
- 登山道及び周辺森林の整備と自然体験ウォーキングの開催など



◀ 間伐材を活用した薪づくり体験



◀ 子どもたちを対象にした森林体験



文：樹木医・日本森林インストラクター協会 理事 川尻 秀樹

「白子屋のお駒はんが舞っていますね」、12月のある日、冬の使者と呼ばれる雪虫が風に流され飛んでいました。京都では白く静かに飛ぶ雪虫を美しい女性の姿に例えて「白子屋のお駒はん」と呼んだのです。

雪虫とはハマキアブラ属やワタアブラ属、ヨスジワタアブラ属、ゴバイシアブラ属など、蛾物質を多く分泌するアブラムシ科の有翅成虫を指す総称です。私たちがよく目

にするのは、ケヤキヒトスジワタムシ (*Paracolopha morrisoni*) やリンゴワタムシ (*Eriosoma lanigerum*)、トドノネオオワタムシ (*Prociplus oriens*) などです。

一般にアブラムシ類は、春以降は雌だけで世代交代をする単為生殖によって増殖しますが、冬には受精卵を越冬樹木に産卵するため、翅(羽)を持つ有翅成虫が発生します。この有翅成虫の中には、蛾物質の綿毛を身にまとうて風になびいて流されるものがあり、その様子が「雪」を思わせるため、雪虫と呼ばれるのです。

綿毛の主成分は炭素数21〜34個の飽和直鎖炭化水素で、他に少量の側鎖炭化水素(3メチル及び4メチルアルカン)を含んでいます。

雪虫は体長5mmほどですが別名も多く、オオワタやシーラッコ、シロコババ、ユキンコとも呼ばれます。

井上靖は小説『しろばんば』の冒頭で、飛び交うしろばんばを追いかけて遊ぶ子どもたちの姿を描

いています。この「しろばんば」は伊豆地方の方言です。

雪虫の一生についてトドノネオオワタムシを例に説明すると、4月に卵から最初の世代が孵化し、子虫はヤチダモの樹液や若芽の液汁を吸って育ちます。雌のみで雄のいないこの世代は30〜50匹の子(二世代目も全雌)を産みます。ヤチダモの樹液を吸って成長する二世代目はすべて有翅成虫で、初夏に次の寄生木であるトドマツの根元に向かつて飛んで行きます。

その後、トドマツの根元付近でアリ(蟻)と共生関係を保ちながらトドマツの養分を吸って、七〜八世代目まで過ごします。この間、雨が少なく猛暑であると繁殖率が高まり、結果としてその年に見られる雪虫も多くなります。11〜12月になると、成長した有翅成虫(雪虫)が白い綿毛をまとい、風の無い日の夕方にヤチダモ目がけて飛んで行きます。

雪が降る前にヤチダモにたどり

着いた有翅成虫(雪虫)は、すぐに約5匹の有性虫を産みます。この有性虫には緑色した雄と橙色した雌があり、一年間のうち最初で最後である雄ですが、交尾のために生まれるため餌をとる口さえなく、一週間以内に交尾して死んでしまいます。雌は交尾後に樹皮の割れ目などに産卵して死に、越冬した卵が翌春、第一世代として再び現われるのです。



▲トドノネオオワタムシの有翅成虫

平成29年度 森の名手・名人認定証伝達式が行われました

10月25日に村下貴夫公益社団法人岐阜県緑化推進委員会会長（岐阜県議会議員）から今年度の「森の名手・名人」に認定された方々へ認定証をお渡ししました。

森の名手・名人に認定された方

森づくり部門（林業） 関市 **大野 公之**さん

大径木の伐採技術に優れ、森林技術師連絡協議会長を務められた他、高性能林業機械を駆使した低コストの森林づくりを実践し、最近では架線系の機械にも取り組まれています。

加工部門（建具職人） 恵那市 **所 正幸**さん

永年にわたって建具づくりに精進され、組子細工による建具製作を得意とし、木によって異なる色の組子を絵画のように組み入れ、繊細で美しい作品を作り出されています。

森づくり部門（林業） 東白川村 **田口 和志**さん

集材機の架線の張る方向や張り方等を経験豊かな技術により的確に判断出来ます。また、家業の製材業では、FSC認証やぎふ証明材の取得等、地域材の振興に貢献されています。

■認定証伝達式



左から村下会長、所さん、大野さん、高井林政部長（田口さんは都合により欠席されました。）

「森の名手・名人」とは

森や山に関わる樵（きこり）、マタギ、炭焼きなどの生業において優れた技を極め、他の模範となっている達人について、「森づくり」「森の恵み」「加工」「森の伝承・文化」の4部門を設けて、公益社団法人国土緑化推進機構が「森の名手・名人」に認定しています。

平成29年度現在の認定状況

全国の認定者数…………… 1,328名（本年度70名）
岐阜県の認定者数…………… 50名（本年度 3名）全国3位

【公益社団法人岐阜県緑化推進委員会 専務理事 黒崎 隆司】

第57回 治山研究発表会の開催

平成29年9月21日に国立オリンピック記念青少年総合センターにて、第57回治山研究発表会（主催：治山研究会、事務局：林野庁治山課）が開催されました。治山研究発表会は、治山事業の発展に資することを目的に、全国の治山事業関係者が集い、日頃から研究してきた技術研究等の成果を発表する場です。今回の発表会では4部門、全48項の発表があり、岐阜県からは森林造成部門で「治山事業における針広混交林への取り組みについて」（恵那農林事務所）を発表しました。この発表会が県内治山事業関係者の励みとなり、これからも治山事業の発展のため研鑽されることを期待します。



第57回 治山研究発表会の開会式



岐阜県発表
「治山事業における針広混交林への取り組みについて」

【治山課 林 和正】 ●詳しい内容を知りたい方は TEL 058-272-1111 内線(3167)治山課まで

木造住宅の耐震性能について

〜平成28年熊本地震被災状況より〜

岐阜県立森林文化アカデミー 准教授 ● 小原 勝彦

● はじめに

未曾有の大規模地震災害を引き起こした平成28年4月に発生した熊本地震で、熊本県益城町では最大震度7が2回、6弱が1回でした。こういった大地震が複数回生じることが、建築基準法での要求性能としては想定範囲を超えるものとなります。

建築基準法で想定している建物への要求性能は、大地震(震度5弱程度)に対して損傷防止、大地震(震度6強程度)に対して倒壊防止です。損傷防止は、建物の損傷を防止する性能ですので、地震後の建物の継続使用を想定しています。しかし、倒壊防止は、建物の倒壊を防止する性能のため、地震後の建物の継続使用を想定していません。

しかし、熊本地震のように複数回の大地震が発生していること、損傷が累積されて建物の性能が低下すること、などが現実には生じています。

● 熊本地震での被災状況

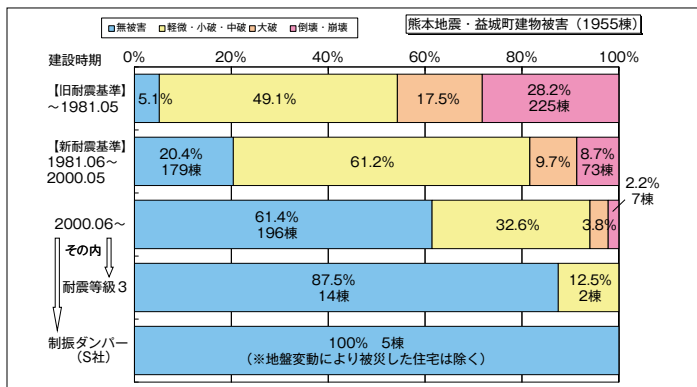


図1 平成28年熊本地震による益城町建物の被災状況 (日本建築学会の報告に小原の調査結果を追記)

熊本地震による益城町建物の被災状況を図1に示します。1981年以前の旧耐震基準の建物の内、約1/3の建物が倒壊し、95%の建物が何らかの損傷を生

前に建築されたものについて倒壊等の被害が見られた」として、「2000年以前の既存の木造住宅を中心に、リフォーム等の機会をとらえ、同年に明確化した仕様を照らして、接合部等の状況を確認することを推奨」とし、「新耐震基準の木造住宅の耐震性能検証法」を公表しています。

すなわち、2000年以前の建物は耐震診断を行い、耐震性が不足する場合には耐震補強しないといふことです。

● 熊本地震で倒壊しなかった建物

2000年以後の建物内、耐震等級3(品確法の性能表示制度)による。建築基準法の1.5倍の耐震性能を有することを表示している。の建物には倒壊がありませんでした。

また、2000年以後の建物内、制振ダンパーを設置した建物には倒壊が無かったことはもちろんのこと、目視で確認できる損傷も一切ありませんでした。

こういった状況下で、熊本では「制振ダンパー」という言葉を一般の方々も利用していると聞いています。また、各住宅メーカーでは「制振ダンパー」を標準とした仕様の建物をラインナップしていると聞いています。

● おわりに

現在、制振構造の評価方法や設計方法が確立されていない状況ですが、一般の住まい手は耐震構造だけでは不安を感じているのかもしれない。

じています。この旧耐震基準の建物は、すでに兵庫県南部地震(1995年)の被災状況からも耐震性能に問題ありと報告されており、耐震診断及び耐震補強を進めていくことが必要であると言われてきています。

2000年以前の新耐震基準の建物の内、約1割の建物は倒壊し、8割の建物が何らかの損傷を生じています。

2000年以後の建物内、3%が倒壊し、45%の建物が何らかの損傷を生じています。

● 現在の耐震性に関する動向

あまり一般の方に知られていませんが、実はこの2000年に木造建築の構造的な規定が大きく変わっています。その主なものは、①耐力壁配置のバランスの定量化、②柱頭柱脚接合部の定量化、③地盤の強さに応じた基礎形式の選定、などになります。

今年5月に国土交通省は、「新耐震基準の在来軸組構法の木造住宅のうち、接合部等の規定が明確化された2000年以

川辺町おおぞら教室

岐阜県加茂郡川辺町中川辺1537番地1



施設全景

● 施設概要

事業年度	平成28年度
事業主体	川辺町
構造・延床面積	木造1階建て 延べ床面積334.8㎡
施設用途	児童福祉施設
木材使用量 使用樹種	96.5㎡ (うち県産材使用量 77.4㎡) 主な使用樹種 スギ、ヒノキ
全体事業費	99,090千円
助成額	木の香る快適な教育施設整備事業 5,678千円
設計者	設計工房 古山
施工業者	株式会社市川工務店
工期	平成28年6月17日～平成29年1月31日

● 施設の経緯

平成29年3月に竣工しました「川辺町おおぞら教室」は、ことばや発達に支援が必要なお子さんに対して、通所による個別・集団指導を行う児童発達支援施設です。

おおぞら教室の名称は、「おおぞらにおおきくはばたけるよ」という意味や、子どもたちのこれからの歩みに、たくさんの幸せが訪れることを願って命名しました。



● ここに注目!!

- 構造材、内装材にスギ、ヒノキを使用し、木のぬくもりの感じられる温かみのある施設です。

● 利用者の様子

- 木に囲まれた教室で元気いっぱいのびのびと活動しています。

■ 問い合わせ先
川辺町おおぞら教室
TEL 0574-52-0021

岐阜市の森林づくり

岐阜市の森林への様々な取り組みを紹介します。



岐阜市の概要

岐阜市は岐阜県の南部に位置し、中部地方の経済活動の中心である名古屋へは電車で約20分、世界への玄関口である中部国際空港へは1時間程度で到着する県都です。また、市中心部に原生林の緑豊かな金華山や清流長良川を有するほか、1300有余年の伝統を持つ長良川鵜飼、織田信長公ゆかりの岐阜城など、多くの歴史・文化資産があります。



▲金華山と清流長良川

本市の総面積は203.60km²、その中で森林面積は60.64km²で市全体の約30%となっており、県全体の約80%と比較しても低い割合となっています。また、このうち人工林面積は9.52km²で市全体

の約16%となっており、これも県全体の約45%を大きく下回っています。

森林整備の取り組み

本市は県内の他市町村と比較して、森林面積や人工林面積は少ないですが、森林は市街地に近く都市近郊の森林として、市民が気軽に訪れることができ、森林浴や自然散策、レクリエーションを楽しむことができます。

市民が安全で安心して森林を楽しめるよう、県の「清流の国ぎふ森林・環境基金事業」や国の「森林環境保全直接支援事業」などを活用して森林の整備(市管理の森林)や森林組合など各種団体へ森林整備に対する支援を行っています。

分収造林の取り組み

森林には、土砂の崩壊や流出を防ぐ、山地災害防止機能や、森林土壌が雨水を吸収して蓄え、時間をかけて浄化した良質な地下水を安定的に河川へ送り出す水源かん養機能など、多面的で公益的な機能があり、本市の中心部を流れる長良川も上流域に広がる森林のこうした働きによって、美しく豊かな水をたたえる清流として育まれています。

清流長良川は、市民の生活に欠かせない大切な存在で、貴重な水源であるのみならず、農業、商工業、さらには前述した長良川鵜飼の舞台にもなっています。

その長良川の清流を守り、未来へと引き継いでいくため、本市では長良川上流域の自治体と連携して、上流に広がる豊かな森林を守り育てる取り組みを行っています。

この取り組みは、上流域の自治体が土地を提供し、本市が森林整備にかかる費用負担者となり、新植・保育などの森林整備を行って、成林後は収益を分収する事業です。

昭和57年に、現在は郡上市となっている旧高鷲村との間で事業を始め、共に手をたずさえるとい意味で事業地を「たずさえの森」と命名しました。

それ以来、旧明宝村や旧和良村、現関市の旧上之保村、さらには現山県市の旧美山町など、計15箇所の森林へと拡張、現在では、郡上市、山県市、関市の3市との間で約70haの事業地において、約17万本の木を育てています。



▲岐阜市と郡上市の小学生の交流

最初の事業地である郡上市高鷲町は、平成29年で35周年を迎えたのを機に「分収造林たずさえの森事業」の意義を再認識し、上流域の森林整備の大切さを次世代へと引き継ぐため、岐阜市と郡上市の小学生を交えた交流事業を開催しました。

木材利用促進の取り組み

木材の利用に関する取り組みとしては、平成25年6月に、「岐阜市公共建築物等における木材の利用推進に関する方針」を策定し、本市の関係部局から成る「木材の利用推進連絡会議」を開催して、公共建築物等における木造化、内装等の木質化及び木製品の導入など、木材の利用促進に努めています。



▲みんなの森ぎふメディアコスモス

これからの取り組み

これからも森林への様々な取り組みを通して、森林を守り育て、林業振興を推進し、林業・木材産業を活性化させてまいります。

●詳しい内容を知りたい方は
TEL 058-2605-4141(代)

岐阜市役所農林園芸課まで

平成29年度

第56回 治山研究会中部支部現地検討会に

参加しました

可茂農林事務所林業課 上村 康人
下呂農林事務所林業課 熊崎 尚哉

治山技術の向上への寄与等を目的

に、中部8県と中部森林管理局等を構成員に治山研究会中部支部が設置されています。当支部では現場技術の向上を目指し、毎年構成県が持ち回りで技術検討会を実施しています。今年度は9月に福井県において開催され、岐阜県から2名が参加し、計画書の作成方法を学びました。

検討会概要

検討会は次の内容で行われました。

- 開催日時…平成29年9月5日～平成29年9月7日
- 現地検討箇所…福井県三方郡美浜町丹生地内
- 室内検討会場…福井県嶺南振興局敦賀合同庁舎
- 検討内容…現地調査と治山事業設計計画
- 参加者…治山事業の実施計画書作成
- 24名 各班6名の4班で検討

● 日程…

- 1日目 現地検討
- 2日目 室内検討
- 3日目 成果発表

現地検討

検討会初日は、日程説明等の後、班分けされ、現地検討に出かけました。

現地箇所は、美浜町北部、小半島内の水晶浜近くにある丹波山内の小溪流です。当溪流は元々幅1m程度でしたが、平成25年9月の台風時に山腹崩壊及び溪流浸食により、下流に土砂が流出し、荒廃溪流となっています。

今回の研修の目的は、この溪流に溪間工等を設置するための測量、設計及び計画書を作成する中で互いに意見を出し合い、検討力、考察力を深めることです。測量は各班1か所の横断測量と局所縦断測量を行いました。また、溪流全体の荒廃状況を記録しました。

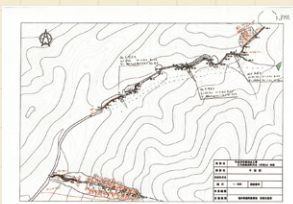
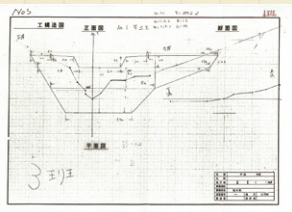
室内検討

2日目は班ごとに溪間工等の設計と計画書の作成を行いました。

設計検討は各県の班員がそれぞれ考えを出し合い、また、講師からアドバイスをいただきながら進めました。



測量実施状況



完成した平面図・構造図

成果発表

第3日目に班ごとにパワーポイントを用いて、成果の発表と質疑応答を行いました。

各班、異なる設計結果になりましたが、いずれも考え方がはっきりとしており、なるほどと思われました。同一溪流でも多くの視点で設計検討することが重要であると学びました。



発表状況

最後に

今回の検討内容を今後の業務に反映したいと考えています。

また、ご多忙の中、研修資料・会場の準備及び研修時の指導をしていただきました福井県職員の皆様には大きく感謝いたします。

● 詳しい内容を知りたい方は

TEL 0574-2513111(代)

TEL 0576-5213111(代)

可茂農林事務所まで
下呂農林事務所まで



山のおじまむし



— 音色でおいしいビール、コオロギ — 【第317回】

自然学総合研究所 野平 照雄 ● Teruo Nohira

前回お話しした孫のチビちゃんたちが飼っているトカゲ。餌は生きている昆虫や蜘蛛なので、これを与えなければならぬ。この餌を採るのが私の役目。チビちゃんのためだと毎日出かけた。「トカゲの餌だよ」、「ありがとう、お爺ちゃん」。この会話が何日も続いた。これが楽しみで餌採りをしているのだ。それが、いつからか足取りが重くなってきた。暑くなってきたからである。炎天下で汗だくになって、捕虫網を振る。これがきつい。虫好き人間の私でも嫌になってきた。他に方法がないかと考えた。ふと、外国の美しいトカゲを飼っているK氏が浮かんだ。餌はコオロギで、これを飼育で大量に育てていると聞いたことがあるからである。これなら毎日餌採りをしなくてもすむ。これだ。K氏に電話を入れ、飼育のコツなどを教えてもらった。これなら虫採りをしなくてもすむ。しかも効率的だ。気が楽になったとK氏にお礼。ところがK氏から意外な言葉。「野外で採った方が楽かも知れませんが」とK氏は笑って電話を切った。飼育を始めた。コオロギは日本にいないヨーロッパイエコオロギ（以下、コオロギ）。丈夫でたくさん卵を産むからだ。これをネットで100匹注文した。この間に飼育箱の準備。これは化粧ケースで代用し、蓋に小さな空気穴をたくさんあけた。そして、食堂（餌を食べる場）、水飲み場、身を潜める休憩場や産卵場などを作った。後はコオロギを入れるだけだ。

× × × ×

コオロギが届いた。体長は5mmと小さい。老眼の私には黒い米粒のように映る。これを飼育容器に入れ始めた。ところが動きは素早い。それに飛躍力がある。移している途中で逃げ出すものもいた。おそらく30匹くらいはいたと思う。残り70匹。これを何としても親にし、卵を産ませなければと思った。コオロギは何でも食べる雑食性なので、ペットショップでスズムシの餌を購入し、これを与えた。すぐに数匹のコオロギが寄ってきた。しかし、餌を食べることなくすぐに物陰に身を潜めてしまう。この繰り返しであった。それが夜になると一斉に出てきて競うように食べ、水を吸っていた。毎日、餌と水の補給。これが私の日課となった。野外での虫採りよりはるかに楽であった。コオロギは食欲旺盛で、餌を与えるとあっという間に食べてしまう。コオロギは日に日に大きくなり、20日経過した頃から、鳴き始めた。日本のコオロギと同じような音色であった。しかし、狭い容器内。何十匹もの合唱となるとやかましく聞こえることもあった。

× × × ×

コオロギのオスは鳴き声でメスを引き寄せ、愛が芽生えて結婚する。しかし、容器の中は騒々しい大合唱。ここでロマンチックな出会いが出来るのだろうか、おかしなことを思った。メス

は卵を産み始めた。産卵場には常に5～6匹が長い産卵管を突き刺して産卵している。これが何日も続いた。その産卵場を調べると無数の卵が産み付けられていた。ざっと数えても数千卵以上。これがすべて孵化して大きくなればトカゲの餌は大丈夫だと思った。卵は8月上旬頃から孵り始めた。2mmの小さな子供だ。それが1日100匹くらい産まれてくるので、あっという間に容器は満杯。その都度飼育箱を増やして12個にもなった。子供たちは食欲旺盛だ。よく食べ、よく水を飲む。しかし、これが不足すると死亡してしまう。餌やり、水の補給、飼育箱の掃除などをして管理した。それでも死亡虫は続出した。ひどいときは半数以上も死亡した飼育箱もあった。原因は水不足や共食い。餌や水のチェックを忘れた私のミスであった。毎日

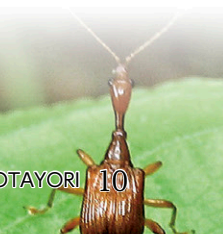
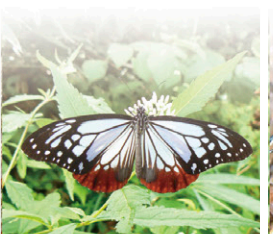


▲産卵中のコオロギ

12個の飼育容器の管理。きついと思うようになってきた。しかも、動きが素早い。わずかな隙間でもジャンプして飛び出すので、餌の取り替え時には気を付けて行った。それでも逃げられ、多いときは数十匹単位。これは大変だ。飼育より野外での餌採りの方がはるかに楽だと思うようになってきた。K氏の言うことが、この時理解できた。

× × × ×

思いもしないことが起きた。お盆の頃から家の中でコオロギが鳴き始めたのである。台所、居間、2階からも聞こえてきた。これは飼育容器から逃げたコオロギが鳴いているのだと直感した。このコオロギは名前の通り家の中に住み、落ちていた家庭ゴミを食べて生きている。しかし、飼育箱に比べ餌事情が悪いので、成長が遅い。この時期になってようやく鳴き出したのだと思った。家の中で聞くコオロギの音色は風情があった。暑い夜、コオロギの音色を聞きながらビールを飲んだ。味は格別。何日も喉を潤した。そのうちに鳴かなくなった。物足りなさというか一抹の淋しさを感じた。しかし、しばらくすれば今飼っているコオロギの逃げ出したのが鳴き出すはずだ。その時もまた冷たいビール、いやその頃は肌寒いので熱燗にしよう。部屋の片隅から聞こえてくる風情ある音色。それを聞きながら喉を潤す熱燗。おいしいだろうな一。





原木しいたけのあじわい

白川町黒川(棚田しいたけ)

白川町黒川(たわわ農園)

藤井 昌弘さん 美和さん

加藤 智士さん 敦美さん

白川町は、東濃ひのきや白川茶の産地として知られていますが、昔から原木しいたけが盛んで、現在も原木しいたけをみなさんに食べてもらいたいという思いのもと栽培をしています。そういった中、若手?のホープをご紹介します。



白川町黒川(棚田しいたけ)
藤井 昌弘さん 美和さん

Q.原木しいたけ栽培をはじめたきっかけは?

A. 原木しいたけ栽培をしていた父から数年前に引き継いだのがきっかけです。十数年来父のお手伝いをしてきた妻やパートの人、地域の先輩方に教えて頂きながら、体力勝負のところもあり大変ですが、棚田しいたけの原木しいたけを途切れさせまいと五十過ぎの身を奮い立たせて取り組んでいます。

Q.難しいと感じるポイントは?

A. 自然相手のところもあり、市場のニーズにあった生産ができるか、需要と供給のバランスとか、そういったことを考えながら年間を通してやっていくことは大変と感じます。また、近年は、原木の仕入れも大変です。

Q.今後の目標は?

A. 原木の量は増やしたいと思っています。今は、年間1万1千本程ですが、父の頃には年間2~3万本植菌していたので、もう少し増やせればと思っています。

Q.原木しいたけのいいところを教えてください。

A. 味が濃くておいしいです。ひとつひとつ形は違うけれど、ひとつひとつに味わいがあります。無農薬でもあります。

Q.おいしい食べ方を教えてください。

A. 焼いて良く、煮て良く、炒めて良く、蒸して良くですが、焼けて生姜たまりで頂くのもお勧めします。



白川町黒川(たわわ農園)
加藤 智士さん 敦美さん

Q.原木しいたけ栽培をはじめたきっかけは?

A. 有機農業の研修で平成23年に白川町に来たとき、研修でお世話になっていた地元の方から頂いた原木しいたけの味に衝撃を受け、翌年度に白川町に移住し就農する際に、食べておいしい、仕事場は環境の良い山、

Q.難しいと感じるポイントは?

A. 相手が菌で目に見えないので、最初のころはしいたけがうまく発生するかどうか不安でした。また自然相手で天候に左右されるという面でも難しいと感じます。地域の先輩等に教えて頂きながらなんとか今年で6年目を迎えます。

Q.今後の目標は?

A. 原木の仕入れも年々困難さを増しているの将来的には、自分で木を育て伐って原木として利用できるようなことができればと思います。中山間地域の強みを生かして、農業とともに地域の森林づくりも考えながら取り組んでいきたいと思っています。

Q.原木しいたけのいいところを教えてください。

A. 味がおいしく、無農薬で栽培しています。

Q.おいしい食べ方を教えてください。

A. 「しいたけカツ」、パン粉をつけてカツ風にします。肉厚、ホッカリです。もちろんいろんな鍋で具材としても最高です。

【可茂農林事務所 荻巣勝俊】

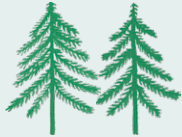
●詳しい内容を知りたい方は

TEL 0574-251-3111 内線(421)

可茂農林事務所まで

100年先の森林づくりは人づくりから

ひだ施業プランナークラブと指標林設定



■飛騨農林事務所林業課 林業普及指導員 中谷 和司

もとより樹木と森林の成長には、数十年以上の時間と広大な空間が必要なことはご承知のとおりです。

県では、第3期岐阜県森林づくり基本計画がスタートし、新たな重点政策の柱である「100年先の森林づくり」に取り組んでいます。

100年先の森林づくりを行うためには、現状森林の将来像、目標林型を定め計画的に森林整備を実施していくことになります。

また、森林の成長は、自然の力に委ねられていますので、気象、地形、植生等の地域特性を踏まえたうえで、森林の将来像、目標林型を定めていくことが重要です。

第3期岐阜県森林づくり基本計画の基本的な考え方として、造林適地と不適地に分類し、地域ごとに望ましい森林の姿を示す森林配置計画を策定して行くこととしています。

地域課題1

国際的コンセンサスである「持続可能な森林経営」を推進する上でも、「適地適木、適した施業」が基本で、そのためには地域森林の現地調査による科学的評価に基づき特性を知ることが必須です。

しかし、当管内の森林面積は309千haと広大であり地域差があることから、現地調査の必要性は感じつつもなかなか出来ないのが現状です。

課題

- ・誰が行うのか
- ・何処から行うのか
- ・森林評価内容、項目は如何に
- ・調査費用はどうするのか

地域課題2

「100年先の森林づくり」持続可能な森林経営を行うためには、長期視点に立ち森林の将来像を定めたいと、計画的に森林整備を進めて

いくこととなります。

具体的には、地域森林のマスタープランである「市町村森林整備計画」であり、5カ年間の整備計画である「森林経営計画」です。特に「森林経営計画」は、間伐等の施工に直結する重要な計画です。

そして、森林経営計画を作成する施業プランナーには、豊富な経験と知識が要求されます。

しかし、各施業プランナーは、各事業体の育成・教育体制があまり整っていないことや林学を修学していないことなど経験・知識度が様々です。人材育成に対する意識はあるものの、日々の業務多忙の中では事業地確保が優先され、個別事案ごとの指示に終始したり補助金制度の基準等の決まりごとに囚われてしまったりしています。その結果、森林の評価は、間伐できるか否かに陥ってしまい、森林経営計画の目標林型は、画一的になりがちです。

課題

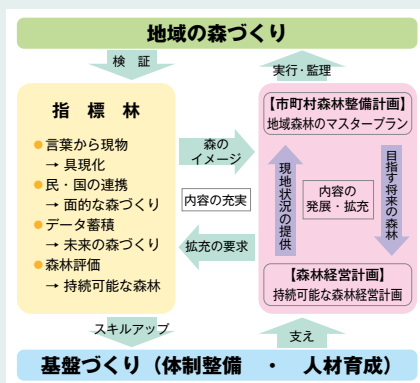
- ・森づくりの基本知識の習得
- ・科学的森林評価技術の習得
- ・各事業体による人材育成・教育体制整備

指標林設定

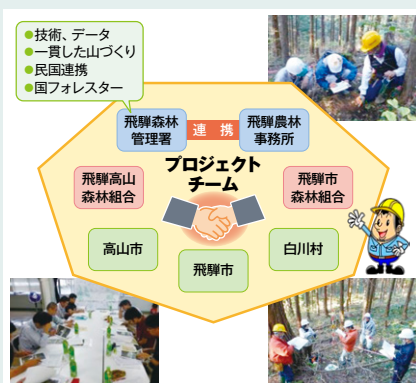
100年先の森林づくりを進める上で、目標となるモデル的な森林の存在は、何をすることも有利です。

そこで、森づくりの指標とすべく森林を「指標林」として設定して行くことにしました。森林の現況を知り、過去の施業等を知り、そして未来に向けてどのようにしていくのかという指標と考えたわけです。

指標林を起点とした地域の森づくり、人材育成を含めた全体像は、図1のとおりです。



▲図-1 指標林を起点とした地域の森林づくり構想



▲図-2 指標林設定プロジェクトチーム

「プロジェクトチーム」指標林の調査・設定に当たっては、飛騨農林管理署と連携し、市・村、森林組合の7者によるプロジェクトチームにより、調査地の選定や調査内容について、やらされ感に配慮しつつ合意を図り進めました。(図1-2)

対象森林

指標林とする対象森林については、林齢、地形、気象等様々な因子が考えられます。初めから細々

位置情報	民図別、大字・字、林小班、面積、所有者、標高、斜面方位、傾斜角、調査日
林分調査	面積、林分密度、材種、胸高直径、樹高、樹冠長、形状比、相対幹距比、気象害、獣害、曲り
施業履歴	植栽年、植栽本数、施業内容、ゾーニング
路網状況	区域内路網延長、路網密度、道からの距離、搬出先（流通拠点）、運搬距離
機能評価	森の通信簿による簡易評価、レーダーチャート
図面・写真	位置図、個所図、写真（全景・林内・溪流）

▲図-3 指標林調査結果表



▲図-4 指標林箇所



▲写真-1 指標林調査状況

●活動内容
○指標林設定

主な活動として取り組んでいる指標林の調査は、担当地区の施業プランナー等、国有林の森林官と森林技術指導官および県の林業普及指導員の5〜6名で行います。

調査は、単に調査するだけではなく、目的・方法や調査結果から読み取れることについて、ワークショップを交えながら行います。

当クラブによる指標林設定です。

調査結果は、図-3に示すとおり1枚にまとめ、情報の共有をしました。現在、指標林は、25か所あり、その分布は、図-4のとおりです。

位置情報	民図別、大字・字、林小班、面積、所有者、標高、斜面方位、傾斜角、調査日
林分調査	面積、林分密度、材種、胸高直径、樹高、樹冠長、形状比、相対幹距比、気象害、獣害、曲り
施業履歴	植栽年、植栽本数、施業内容、ゾーニング
路網状況	区域内路網延長、路網密度、道からの距離、搬出先（流通拠点）、運搬距離
機能評価	森の通信簿による簡易評価、レーダーチャート
図面・写真	位置図、個所図、写真（全景・林内・溪流）

▲表-1 指標林調査内容

な条件とすると対象林の選定が難しくなるため、60〜70年生くらいで各施業プランナーが良い森林だと思われるところから設定しました。樹種は、スギ、ヒノキ、カラマツです。

《調査内容》
調査内容については、表-1のとおりですが、簡易機能評価として「森の通信簿」もあわせて実施しています。

《指標林の活用》

指標林の活用の一つとして、森林経営計画における指標林型の事例として反映しています。目標とする胸高直径・成立本数等は、指標林に裏付けされた具体的な数値であり、実現性の高い目標と言えます。また、目標とした指標林を掲載することにより、施業プランナーや森林所有者等のだれもが、共通の指標林型をイメージすることができ、将来にわたり一貫した施業実施に繋がります。

施業プランナー育成

各事業体は、人材育成・教育について問題意識はあるものの、それぞれの事情により教育体制が明確でなかったり、施業プランナーとしての位置づけもはっきりしていません。

一方、若手・中堅職員の中には、技術・知識の習得意欲が高い職員もいたり、小規模事業体では、年の差もあり若手が孤立するケースもあります。また、他の事業体の手法を知りたいという声も聞かれます。

私たち林業普及指導員が、施業プランナー等を育成支援していく中でも、事業体ごと、個人ごとに対応していくにも限界があります。

ひだ施業プランナークラブ

そこで、事業体の枠に囚われず、一元的且つ柔軟に育成支援していくために、施業プランナー等中堅、若手職員による組織化を行いました。

目的を会員相互の情報交換と親睦、自己研鑽、地位向上を図り100年先の森づくりを目指すこととしました。

平成28年7月に設立し、会員は現在54名です。メンバーは、施業プランナーに限定せず、管理職を除いた若手職員に加え、飛騨森林管理署の森林官にも参加いただきました。

組織化するに当たって、組織化そのものについては、理解を得られたものの、何かをやらされるのではないか、業務の負担になるのではないか、堅苦しいのはごめんだ等の疑念の声もありました。

そのため、活動については、業務の負担にならない、堅苦しい集まりでなくフレンドリーな雰囲気になろうと、名前も「協議会」等でなく「クラブ」としました。

活動の指導・支援については、会員を集めての研修会ではなく、業務をとおして育成していくOJT的な手法を取り入れました。それが、当クラブによる指標林設定

（写真-1）

○HPC通信

会員紹介や各種研修会・イベント等開催と参加したときの感想等の情報を発信しています。

○研修会等

- ・飛騨共販所原木市場調査
- ・飛騨森林管理署コンテナ苗植栽研修
- ・フォレストスター・プランナーギャザリング（京都市・福知山市）
- ・架線系作業システム研修会
- ・100年先の森林づくりシンポジウム
- ・林業専用道等作業道研修会
- ・屋根型作業道に見る丈夫で安価な道づくり現地検討会
- ・原木評価勉強会

今後の方針

指標林を通しての施業プランナー育成で強く感じたことは、森林評価に対する認識が低く、科学的ではなく自分の見た目での判断による傾向があることです。

森林の適正な評価は、森づくりの基本であり、様々な森林の観察・評価を数多く行うことが肝要なことからも、指標林設定を推進していきます。

また、施業プランナーの主体性を高めていくため、リーダー的人材の育成も視野に入れていきたいと思っています。

将来的には、組織内での教育体制強化や地域森林づくりの牽引者の存在を目指し、視野を広げるために岐阜県フォレストスター協会への合流を検討していきたい。

●詳しい内容を知りたい方は

TEL 0577-331111 内線4902
飛騨農林事務所林業課まで

列状間伐で壮齢ヒノキ人工林の表土移動は防げるか

森林研究所 ● 岡本 卓也

はじめに

ヒノキ一斉人工林では、鬱閉した林冠を放置すると、林内が暗くなるため下層植生が衰退し、表層土壌の流出（表土移動）が発生しやすくなります。それを防ぐため、適切な時期に間伐を行い、林内を十分な明るさに保ち、下層植生を衰退させないことが重要です。

しかし現実には間伐が遅れ、下層植生が衰退している人工林があります。このような下層植生が衰退した林分では、通常の間伐を行っても再び植生を回復させるのが困難な事例も見られます。

下層植生を回復させるための間伐

衰退した下層植生を回復させる方法として、通常の間伐より高い割合で木を伐り、林内により多くの光を入れることができる列状間伐（一定の列を決め、その列内の木を全て伐採する間伐）が考えられます。列状間伐では伐採する列（伐採列）としない列（残存列）

があり、それぞれの列で植生の回復状況に差が生じ、表土移動を抑制する効果が異なる可能性があります。

そこで、列状間伐が下層植生が衰退した壮齢ヒノキ人工林の表土移動に与える影響を調べるために、西濃地域で2伐5残の列状間伐をした55年生ヒノキ人工林（図1）において、間伐直後から2年間の伐採列と残存列の植被率（※）と表土移動の状況を調査しました。



図1 調査した壮齢ヒノキ林の状況

列状間伐後の土砂移動状況

植被率は、残存列では2年目に若干減少しましたが、間伐直後に比べると両列とも増加していました（図2）。表

土移動の状況は、両列とも年が経過するごとに減少する傾向にありました（図3）。

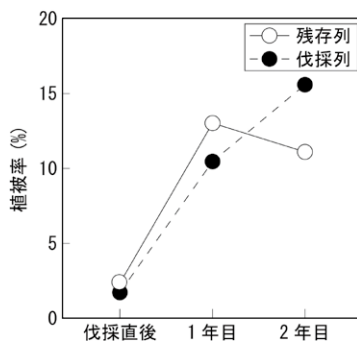


図2 伐採後の植被率の変化

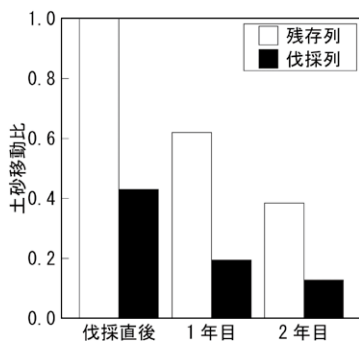


図3 伐採後の表土移動の状況

伐採していない残存列でも植被率が増加したのは、伐採列から十分な光が入ったためと考えられます。

以上から列状間伐は、下層植生が衰退した壮齢ヒノキ人工林の土砂移動を減少させる方法として、一定の効果を発揮できると考えられました。

おわりに

今回の事例は、伐採後2年目までの短い期間における調査結果です。残存列で2年目に減少した植被率が今後どうなるのか、伐採列の植被率は増加し続けるのか、このまま表土移動は減少し続けるのかなど、解明しなければならぬ点が多くあります。また、一口に列状間伐といっても、伐採列の幅や間隔などの条件は様々で、その違いについても検証が必要です。

今後は、様々な条件の列状間伐を実施した壮齢ヒノキ人工林において表土移動状況の調査を行い、表土移動の防止に効果的な列状間伐の条件について、検討を重ねていく必要があります。

※下層植生が林床を覆っている割合。下層植生の豊かさを示します。



図4 伐採2年目の下層植生の状況

● 詳しい内容を知りたい方は

TEL 0575-333-2558

森林研究所まで

治山・林道研究課題

治山、林道の各研究会では、日頃の業務で直面する課題について、調査・研究を行っています。今年2月に行われた発表会（本誌763号18〜19ページ）で発表された研究課題を紹介します。

路側構造物傾倒の原因究明と対処方法

揖斐農林事務所 林業課 川畑裕二

揖斐郡揖斐川町春日地内の林道三倉上ヶ流線で発生した路側ブロック積擁壁の傾倒について、原因調査し、対処方法を検討しました。

破損個所の経緯

当該箇所は、昭和22年に幅員3・0mとして開設された後、平成12年に山側を拡張して幅員5・0mに改築されました。改築の際、既設路側ブロック積擁壁の天端にガードレール基礎を uploads し、アスファルト舗装されました。当時、構造物の変状は見られませんでした。平成19年頃に舗装面の亀裂、また、平成23年頃には既設路側ブロック積擁壁の傾倒が確認されました。

調査内容及び結果

構造物の損壊原因を特定するため、①構造物損壊の状況（目視）、②擁壁基礎地盤の状況（簡易貫入試験、地質ボーリング試験、標準貫入試験）、③擁壁背面土の状況（スウェーデン式サウンディング試験、変状土CBR試験）について調査しました。

各調査結果は次のとおりです。

① 構造物損壊の状況

道路中心路側側路面に線状の亀裂（延長方向約50m、最大幅20cm）、ガードレール基礎背面部で路面陥没（3箇所）が確認されました。また、擁壁天端には上載したガードレール基礎目地位置から下方に向け亀裂が入り、躯体が前傾している状況が確認されました（1:0.4→1:0.37）。



② 擁壁基礎地盤の状況

路側ブロック積擁壁の基礎は、N値9以上の礫質土上に床付されており、現状の鉛直荷重を算出し検証した結果、支持力に問題は認められませんでした。基礎下の地盤についても礫質土で構成されており、すべり面は確認されませんでした。また、基礎埋戻し土砂が流出した痕跡も見られず、ブロック積擁壁の基礎部に変状はないと判断されました。

③ 擁壁背面土の状況

深さ2m程度まで非常に緩い状態が確認されましたが、路床土の変状土CBR値は237%と高く、舗装版沈下の原因が路床土の支持力不足ではないと判断されました。

損壊原因

調査結果から、路側ブロック積擁壁の基礎部分は今回確認された変状の要因ではないと判断し、次のように、損壊原因を推定しました。

- ・路側ブロック積擁壁が外カーブ中（曲線半径20m）に設置されている
- ・平成11年以降、当路線の改築工事が開始され大型車両の通行量が増加している
- ・ガードレール基礎により路側ブロック積擁壁が高上げされている（高さ6m）
- ・これらのことから、急カーブ走行によるブレーキや遠心力による負荷により路側ブロック積擁壁の躯体が前傾し、背面盛土に間隙が発生、さらに路面の亀裂からの雨水流入により路盤材が吸い出され路面陥没が発生したと考えられます。

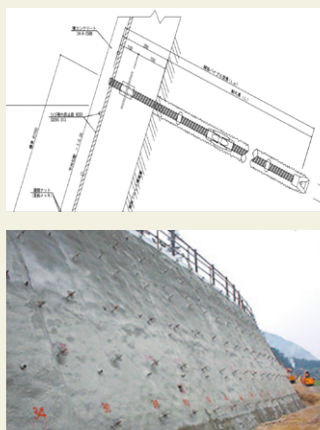
対策工法

経済性・施工性に加え、直上に民家があることから林道山側には影響を与えないこと、集落への通行に利用されることから短期間での工事が望まれることに配慮し、工法を選定しました。採用工法は、専用の補強パイプにより法面の安定を補強する工法で、採用のポイントは次のとおりです。

- ・盛土、土砂地盤等の孔内崩壊が生じやすい地盤を対象とした特殊な鉄筋挿入工

で、既存ブロックを残したまま施工するので安全性が高い
・同時削孔注入方式により工期短縮が可能
・大規模な掘削や仮設も必要がなく周辺の改変が少ない

工種	A工法 (補強)	B工法 (補強)	C工法 (補強)	D工法 (新設)	E工法 (新設)	F工法 (新設)
施工性	○	○	△	× 支持力不足	× 滑動OUT	△
景観・環境への配慮	◎	○	△	△	△	△
工期	○	◎	△ (養生有)	△ (掘削有)	△ (掘削有)	△ (掘削有)
経済性 (千円/m)	○ (705)	◎ (497)	△ (780)	○ (646)	○ (683)	○ (709)
総合評価 (順位)	2	1 採用	4	×	×	3



完成イメージ

復旧工事では、当工法による路側ブロック補強の他、路床入替、舗装打替を計画しています。

詳しい内容を知りたい方は

TEL05855-231111(代)

揖斐農林事務所まで

農林高校生林業就業促進事業と

二ホンジカ食害防除対策検討会

岐阜森林管理署 主任地域林政調整官 大島 愛彦

農林高校生林業就業促進事業の開催

10月18日(水)と24日(火)に、可茂農林事務所と岐阜森林管理署が民国連携して農林高校生を対象とした林業体験学習等を行いました。

目的は、地域の若い人材を地域の担い手として確保するため、林業に関する専門教育を行っている加茂農林高等学校森林科学科の生徒を対象に、林業・木材産業への関心を高め就業を促進することを狙いとしています。

例年は現地実習のみの開催でしたが、現地では十分な説明ができませんので、今年度は事前に高校の授業で森林・林業の概要を説明し、1週間後に現地実習を行う2段階の構成としました。

授業では可茂農林事務所の渡辺林業普及指導員から100年先の森林づくりや森林の役割、重要性について、岐阜森林管理署からは先進的に取り組んでいるコンテナ苗や二ホンジカ対策等について講義を行いました。

現地実習は七宗町上麻生地区の森林共

同施業団地(林野庁のケーススタディ地区)において、可茂森林組合による伐採作業、高性能林業機械の見学・体験、森林技術者から森林づくりへの熱い思いを語っていただきました。また、当署の七宗森林官から林業被害の軽減に向けて二ホンジカを捕獲する、くくりワナの実演等を行いました。



▲農林高校生林業就業促進事業

その後は白川町の東濃ひのき製品流通協同組合、東濃ヒノキ白川市場で説明を受けながら見学し、林業・木材産業への理解が深まったものと思います。加えて、森林組合、木材団体、各行政機関か

二ホンジカ食害防除対策検討会の開催

10月19日(木)に七宗町の七宗遊園において、二ホンジカ食害防除対策検討会を開催しました。

みなさまご承知のとおり、県内各地で二ホンジカの食害が深刻化し、適正な頭数に管理する個体数調整が求められています。また、造林地へシカを侵入させない、あるいは食害を防止するための防護対策についても、低コストで効果が期待できる技術開発が求められています。

これを国、県、市町村が情報共有を図り意見交換を行うことで、この地域でより効果的な対策を行うことを目的に開催するもので、内容は昨年度とほぼ同じですが、今年度は国有林の有無にかかわらず広く参加を呼びかけ西濃地方など国有林の無い市町や森林組合等からもご参加いただいたこと、国有林の技術を普及できたことは成果であったと考えています。

出席者は30名。午前中は森林研究所の岡本専門研究員から二ホンジカ対策の現

状と課題について、当署の松嶋総括地域林政調整官から国有林における二ホンジカ対策について講義と意見交換を行いました。

あいにくの雨で午後からの現地検討会は縮小して行いましたが、森林技術・支援センターの三村森林技術普及専門官から七宗国有林に設置したシカ対策試験地の概要説明、建物の外でくくりワナ実習を行いました。

検討会は七宗遊園の別棟の建物で行いました。準フオレスター研修に参加された人は覚えがあるでしょうが、レトロな会場で座布団に座って講義を聞くという昔ながらのスタイルで実施しました。今後も国有林をフィールドとした検討会を開催しますので、森林管理署が開催する研修会等への積極的な参加をよろしくお願いたします。



▲二ホンジカ食害防除対策検討会

●詳しい内容を知りたい方は

TEL 050-3160-6000(代)

岐阜森林管理署まで

林業団体と県議会議員との懇話会を開催しました

県下の林業5団体（(公社)岐阜県山林協会、岐阜県森林組合連合会、岐阜県木材協同組合連合会、(一社)岐阜県林業経営者協会、(一社)岐阜県森林施業協会）は、毎年、岐阜県議会林業活性化促進議員連盟会長の早川捷也県議会議員に、ご指導・ご協力を頂き、岐阜県議会議員の方々に、岐阜県の森林・林業・木材産業の現状と課題及び予算確保や新たな施策の要望・提案を行う「林業団体と県議会議員との懇話会」を開催しています。

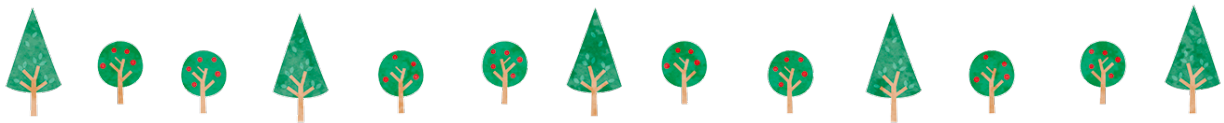
今年も、平成29年10月13日（金）に、岐阜県議会第1会議室で開催しました。衆議院選挙が始まるなど、ご多忙な時期にもかかわらず25名の県議会議員の皆様にも、また、高井林政部長を始め13名の県幹部の方々にもご出席頂きました。懇話会では、各団体からそれぞれの抱える課題、その解決のための予算の確保、新たな施策の提案・要望を行い、県議会議員の方々からは提案・要望内容について詳しい説明が求められるなど活発な議論が行われました。また、高井林政部長から東京オリンピック・パラリンピックにおける県産材の利用への取り組み等の情報提供が行われるなど、有意義な懇話会となりました。

【山林協会 瀬上繁隆】

森林・林業関係イベントカレンダー（1月）

林業者向け

開催日	行事名等	内容等	開催場所 問い合わせ先
1月12日(金)	造材作業の作業指揮者等 安全衛生教育	<ul style="list-style-type: none"> ● 講習時間：8:50～16:30 ● 申 込：12/22まで ● 受講料：11,000円（本代含む）（振込み） ● 定 員：30名（定員になり次第締め切ります。） 	ぎふ森林文化センター （岐阜市六条江東2-5-6） ----- 林材業労災防止協会 岐阜県支部 TEL 058-275-0192 FAX 058-201-1195
1月16日(火)～ 1月17日(水)	木材加工用機械 作業主任者技能講習	<ul style="list-style-type: none"> ● 講習時間：16日～17日 8:30～17:40 ● 申 込：開催日の10日前まで ● 受講料：17,280円（本代含む）（振込み） ● 定 員：30名（定員になり次第締め切ります。） 	ぎふ森林文化センター （岐阜市六条江東2-5-6） ----- 林材業労災防止協会 岐阜県支部 TEL 058-275-0192 FAX 058-201-1195
1月23日(火)～ 1月24日(水)	リスクアセスメント 担当者安全教育	<ul style="list-style-type: none"> ● 講習時間：23日（林業） 9:20～16:30 24日（製造業） 9:20～16:30 ● 申 込：1/10まで ● 受講料：11,800円（本代含む）（振込み） ● 定 員：30名（定員になり次第締め切ります。） 	ぎふ森林文化センター （岐阜市六条江東2-5-6） ----- 林材業労災防止協会 岐阜県支部 TEL 058-275-0192 FAX 058-201-1195



コラム

野球が好きです。好きなプロ野球チームは「中日ドラゴンズ」、好きな言葉は「ドラフト会議」、愛書は「森林のたより」と「週刊ベースボール」です。そんな自分の子供なのでやはり少年団で野球をしています。低学年のころは「ヘルメットを持ってこい」と言ったら自転車のヘルメットを持ってきたこともありました。

小5の昨年は、生まれ持つ野球センスと集中力の無さを発揮し、全ポジション、全打順を経験するなど、良く言えばオールラウンドプレイヤーでした。

最終学年の今年も、仲間が怪我で離脱していく中、もう一つの生まれ持った「体の頑丈さ」を、これまた遺憾なく発揮し、エースとして1年間投げ抜きました。色々なことがありましたが、6年間はあっという間で、今ではすべてが良い思い出です。

今後も、夢や希望を大切に、仲間を大切に、中学校に行っても、また新たな仲間と共に野球を通じて絆を深めていって欲しいと思います。

最後になりましたが、現在自分がイッパです。

「森林のたより」編集委員 増田 龍太

イベント情報

1月1日発行

連載

- 山の歳時記 (149)
- 山のおじゃまむし (318)

地域の人

森の名手・名人

清流と森と親しむ

- 森林と人を活かす知恵 (61)

木と親しむ

- 岐阜県の公共木造建築 (59)

清流の国ぎふ森林・環境税

わがまちの森林・環境行政 (13)

森林・林業技術

- 研究・普及コーナー

市況情報 その他

1月号 予定

木材市況 県森連 岐阜・飛騨・東濃林産物共販所

単位:円(1㎡当たり)

回数 共販所名	樹種	長さ	径	平均値	高値	備考
第1642回 岐阜共販所	すぎ	3 m	16~18cm	12,200	—	単価は直材 価格、但し 平均値は並 材二番玉価 格
			16~18cm	11,200	—	
		4 m	20~22cm	11,700	—	
			24~28cm	12,700	16,500	
			30cm以上	12,000	21,600	
	3 m	16~18cm	16,300	—		
		20cm以上	15,000	—		
		4 m	16~22cm	16,800	—	
			24~28cm	14,500	—	
			30cm以上	16,500	—	
第1219回 飛騨共販所	すぎ	3 m	16~18cm	12,000	—	
			24~28cm	12,000	—	
		30cm以上	11,000	19,000		
	ひのき	3 m	16~18cm	16,000	—	
			20~22cm	15,500	—	
		4 m	24~28cm	14,500	—	
	30cm以上	16,000	44,700			
		6 m	16~20cm	25,000	27,700	
		まつ	4 m	24~28cm	9,000	—
	30cm以上			10,000	—	
ひめこ	4 m	24~28cm	16,000	—		
		30cm以上	17,000	22,000		
	5 m	30cm以上	—	—		
第1552回 東濃共販所	すぎ	3 m	16~20cm	12,200	12,900	
			22~28cm	12,500	20,000	
		30cm以上元	13,800	48,000		
	3 m	16~20cm	16,700	48,000		
		22~28cm	14,700	48,000		
		30cm以上元	20,000	240,000		
	ひのき	4 m	13cm以下	9,000	—	
			22~28cm	15,000	42,000	
		30cm以上元	21,000	130,000		
	まつ	4 m	18~20cm	27,100	29,700	
22~28cm梁			7,500	—		
30cm以上元	10,000	—				

木材市場

全般的に横ばい(弱含み)で推移

【商況】

スギ並材3m(16~24cm)は不足しており強含み。スギ4m元木、二番ともに中目、中目上不足しており強含み。スギ構造材向け並材、合板向け、かなり不足。ヒノキ並材4m土台取り強含み、造材は4m(16~22cm)が有利。ヒノキ二番中目材は荷動きも少なく、弱含み。製紙パルプ向け針葉樹、かなり不足。一方、製紙パルプ向け広葉樹原木は受け入れ制限。予定される方は共販所担当者まで、一報ください。(岐阜)

ヒノキ並材4m(16~22cm)は強含み。スギ並材3m・4m(16~24cm)不足。需要期を迎えヒメコ、広葉樹は上昇の気配有。カラマツの引き合いが強く買気旺盛。スギ太物良材は人気、欠陥材は売りづらい。広葉樹は入荷が薄い状態。(飛騨)

ヒノキ元木、良材(高齢材及び枝打材など(特殊材))2m・3m・4m・6mは、応札多く横ばい。ヒノキ並材は3m・4m(16~28cm)横ばい、6m(16~20cm)価格安定。スギは全般的に品薄、4m元木、良材は応札多くやや高値、二番玉並材は3m・4m(16~28cm)横ばい。枝虫材等、欠点材は売りにくい。(スギについては、県内新工場稼働(長良川木協)につき今後原木の流れが良くなるが、荷不足感が強い。)(東濃)

製品卸売標準価格 (10月期)

(単位:円)

樹種	用途	寸法(mm)			等級	m ³ 当り 価格	(本(枚)単価)	前月 比較
		長	巾	高				
スギ	柱	3000	105	105	1等	65,000	(2,150)	→
	間柱	3000	105	30	1等	65,000	(614)	→
ヒノキ	土台	4000	105	105	特等	65,000	(2,867)	→
		3000	120	120	特等	60,000	(2,592)	→
	柱	3000	120	120	(東濃松)特等	65,000	(2,808)	→
		6000	120	120	特等	120,000	(10,368)	→
W集 ウ成 ド材	柱	3000	105	105	国産5層	59,000	(1,950)	→
		3000	120	120	国産5層	60,000	(2,580)	→

※日刊木材新聞調べ(名古屋標準相場 全てKD材)

外材市況 (10月期)

1㎡当り(価格単価:100円)

樹種	規格	価格	樹種	規格	価格
米松	SSタイプ	299	米栂	へム(アラスカ産)	288
	コースト(目荒)	310	米ひば	ポール	310

日刊木材新聞調べ 名古屋標準相場(径級は30cm上、米松コーストのみ大阪相場)



あつみつざい 圧密材

木材用語一口メモ

木材をプレスで圧縮して密度を上げ、硬さや強度などの物性を向上させた材。寸法安定性が良いことに加え、表面硬度が高くキズがつきにくい利点があるため、床材や家具などの製品開発が進められています。